

キ	登降園時間の違いなど、個々の生活背景に十分配慮している。	23	25	15	3	0	0	1	0
ク	休息したい（眠くなったとき）時に安心して休息する（眠る）ことができる場所を確保している。*1	22	24	12	4	0	0	4	0
ア	食事を楽しむための工夫をしている。	16	25	21	1	0	0	0	4
イ	食事をする部屋としての雰囲気づくりに配慮している。	20	16	21	5	1	0	4	0
ウ	子どもが食べ物に関心を持つよう工夫している。	16	26	23	1	0	0	0	0
エ	個人差や食欲に応じて、量を加減できるよう工夫している。	34	15	13	5	0	0	0	0
オ	子どもの負担になるほどに、残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていない。	35	26	6	0	0	0	0	0
カ	子どもが落ち着いて食事を楽しめるように保育者が工夫して援助している。	22	29	14	0	0	0	1	1
キ	時には戸外で食べるなど、様々な食事のスタイルの工夫をしている。	15	16	8	10	7	2	8	1
ク	子どもが育てた野菜などを料理して食べる機会を設けている。	20	12	6	4	4	8	13	0
ケ	子どもが食事の準備や後片づけなどに参加できるように配慮している。	21	22	11	5	1	1	6	0
ア	食事内容が幼・保などで異なる場合に子どもへの対応に配慮している。	7	7	4	0	0	1	44	4
イ	子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	14	22	19	5	1	0	4	2
ウ	その日の喫食状況（哺乳も含む）を保護者に伝えていく。	27	18	11	5	0	0	6	0
エ	様々な機会に発育期にある子どもの食事の重要性を保護者に伝えていく。	9	16	26	6	4	1	5	0
オ	基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	31	23	11	0	0	0	0	2
カ	トイレに行くことをせかしたり、強制したりせずに、一人一人のリズムに合わせている。	24	28	11	2	0	0	2	0
キ	おもらしをしたときに、その都度やさしく対応し、子どもの心を傷つけないよう配慮している。	35	18	10	1	0	0	2	1
ク	衣服の脱ぎ着に際して、せかしたり、着せたりしなかったりしないで、自分でやろうとする子どもの気持ちを大切にしている。	23	26	14	3	0	0	1	0
ケ	子どもが自分で着脱しやすいうつに、衣類の整理の仕方や着方の援助について工夫している。	15	24	23	2	0	0	3	0
ア	休憩時には、子守唄を歌ったり、背中を軽くたたいたりなど、安心して心地よい眠りにつけるように配慮している。	31	14	1	0	0	0	20	1

キ	登降園時間の違いなど、個々の生活背景に十分配慮している。	2	2	2	0	0	0	0	0
ク	休息したい（眠くなった）時に安心して休息する（眠る）ことができる空間が確保されている。	1	3	2	0	0	0	0	0
ア	子どもの喫食状況などに配慮して、献立の作成・調理の工夫をしている。	2	3	0	0	0	0	0	1
イ	子ども一人ひとりの発育発達状況を考慮し、おいしく食べやすい形状で提供されている。	3	3	0	0	0	0	0	0
ウ	残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映させている。	4	2	0	0	0	0	0	0
エ	食事の献立については、旬の物や季節感のある食材を活かし、行事食なども随時取り入れている。	5	1	0	0	0	0	0	0
オ	食器の材質や形などに配慮している。	3	3	0	0	0	0	0	0
カ	おやつは、できる限り手作りを心がけている。	3	3	0	0	0	0	0	0
キ	調理担当者などが食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。	3	2	0	1	0	0	0	0
ク	子ども一人一人の体調等を考慮して調理の工夫がなされている。	1	4	1	0	0	0	0	0
ケ	食事を楽しむための工夫をしている。	2	1	0	0	0	0	0	0
ア	食事をする部屋としての雰囲気づくりに配慮している。	2	2	2	0	0	0	0	3
イ	子どもが食べ物に関心を持つよう工夫している。	2	3	1	0	0	0	0	0
ウ	個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。	2	4	0	0	0	0	0	0
エ	子どもの負担になるほどに、残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていない。	4	2	0	0	0	0	0	0
オ	子どもが落ち着いて食事を楽しめるように保育者が工夫し援助している。	3	3	0	0	0	0	0	0
カ	時には戸外で食べるなど、様々な食事のスタイルの工夫がある。	2	1	3	0	0	0	0	0
キ	子どもが育てた野菜などを料理して食べる機会を設けている。	2	0	0	0	0	0	0	4
ク	子どもが食事の準備や後片づけなどに参加できるように配慮している。	2	3	0	1	0	0	0	0
ケ	食事内容が幼・保等で異なる場合に子どもへの対応に配慮している。*1	2	0	0	0	0	0	4	0
ア	子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	2	3	0	0	0	0	0	1

カ	休憩時間以外でも、一人一人の状況に応じて、眠らせたり、身体を休ませるようにしている。	26	10	12	2	1	0	16	0	ア 献立表を作成し、事前に配布している。	5	1	0	0	0	0	0	0
キ	休憩時間に、眠くない子どもへの配慮をしている。	16	11	13	1	1	0	25	0	イ レシピを提示し、保護者に園で提供する食事に対する関心を促している。	2	2	1	0	1	0	0	0
6	登園時や保育中の子どもへの健康管理は、職員間での共通理解に基づき、子ども一人一人の発育・発達状況、健康状態に応じて実施している。*1	23	27	12	1	0	0	4	0	ウ 保護者が試食できる機会を設けるなど、栄養・味付け・食べ方など、園で配慮していることを知らせている。	3	2	1	0	0	0	0	0
7	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	20	20	16	4	0	0	7	0	エ サンプルを提示し、その日の献立や量を保護者にも伝えている。*1	2	0	3	1	0	0	0	0
8	感染症に関して職員間*1で共通理解しており、発症時には保護者や子どもに適切な対応をしている。	32	21	10	0	0	0	4	0	オ その日の喫食状況(哺乳も含む)を保護者に伝えている。	3	3	0	0	0	0	0	0
9	アレルギー疾患をもつ子どもに対し、家庭や医師と連携をしながら、その子どもにも適切な対応を行っている。	29	17	8	1	0	0	12	0	カ 食料や食器の素材の安全性に留意し、保護者にも伝えている。	3	3	0	0	0	0	0	0
10	保育課程(教育課程・保育計画)に基づいて指導計画を作成している。*1	22	24	12	1	0	0	7	0	キ 発育期にある子どもへの食事の重要性を保護者に伝えている。	4	2	0	0	0	0	0	0
11	一人一人の子どもへの発達状況に配慮した指導計画となっている。	15	31	12	1	0	0	7	0	基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもへの状況に応じて対応している。	3	3	0	0	0	0	0	0
12	子どもの実態に即して指導計画の評価・見直しを定期的に行ない、その結果を次の指導計画に生かしている。	17	25	15	2	0	0	7	0	ア トイレに行くことをせかしたり、強制したりせずに、一人一人のリズムに合わせている。	4	2	0	0	0	0	0	0
	子どもが自発的に活動でできる環境を構成している。	24	31	8	0	0	0	3	1	イ おもらしをしたときに、その都度やさしく対応し、子どもを構うけないよう配慮している。	4	2	0	0	0	0	0	0
ア	子どもの発達段階に即した玩具や遊具などを用意している。	15	29	19	0	0	0	4	0	ウ 衣服の脱ぎ着の際に、せかしたり、着せてしまったりしないで、自分でやろうとする子どもへの気持ちを大切にしている。	2	4	0	0	0	0	0	0
イ	子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫している。	25	23	12	0	1	0	5	1	エ 子どもが自分で着脱しやすいように、衣類の整理の仕方や着方の援助について工夫している。	2	4	0	0	0	0	0	0
ウ	好きな遊びが継続して取り組める場(コーナー)を用意している。	28	21	8	2	1	0	6	1	オ 休憩時には、子守唄を歌ったり、背中を軽くたたくななど、安心して心地よい眠りにつけるように配慮している。	3	3	0	0	0	0	0	0
13	子どもの活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて柔軟に環境を再構成している。	24	24	15	0	0	0	4	0	カ 休憩時間以外でも、一人一人の状況に応じて、眠らせたり、身体を休ませるようにさせている。	3	3	0	0	0	0	0	0
オ	大型遊具などを使って屋内でも十分に身体を動かしたり友達と一緒に遊んだりする場を用意している。	22	26	14	2	1	0	2	0	キ 休憩時間に、眠くない子どもへの配慮をしている。	3	2	0	0	0	0	0	1
カ	子どもが自由に遊べる時間を確保している。	45	16	2	0	0	0	4	0	登園時や保育中の子どもへの健康管理は、マニキュアなどがあり、子ども一人一人の発育・発達状況、健康状態に応じて実施している。	2	2	2	0	0	0	0	0
キ	子どもの主体性を尊重し、生活に変化と潤いを与えるような行事になるように配慮している。	22	29	10	1	1	0	4	0	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員*1に伝達し、それを保育に反映させている。	4	1	1	0	0	0	0	0

身近な自然や社会とかかわれるような取り組みをしている。	28	13	20	1	0	0	2	3	9	感染症発症時に対応できるマニュアルなどがあり、発生状況を保護者、全職員*2に通知している。	2	4	0	0	0	0	0	
子どもが身近な動植物等に関わりを持つ機会をつくっている。	25	19	15	2	1	0	3	1	10	アレルギー疾患をもつ子どもに対し、医師からの指示を得て、適切な対応を行っている。	2	2	0	0	0	0	2	
子どもが身近な動植物等との関わりを通して生命を尊重する心を持って育っている。	20	20	18	5	0	0	4	0	11	保育課程（教育課程・保育計画）に基づいて指導計画が作成されている。	4	2	0	0	0	0	0	
身近な生活や友達との遊びの中で、数量や文字、図形などに関心を持つ工夫をしている。	8	18	27	8	0	0	6	0	12	一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	3	3	0	0	0	0	0	
季節感のある素材や自然現象を保育に活用している。	24	19	15	5	1	0	3	0	13	子どもの実態に即して指導計画の評価・見直しを定期的に行ない、その結果を次の指導計画に生かしている。	2	2	2	0	0	0	0	
季節や時期ごとの行事を保育に取り入れている。	29	23	7	2	0	0	6	0		子どもが自発的に活動できる環境が構成されている。	3	2	0	0	0	0	0	
散歩や行事などで、地域の人たちや施設などに触れる機会をつくっている。	22	21	11	6	3	0	3	1		子どもの発達段階に即した玩具や遊具などが用意されている。	3	2	1	0	0	0	0	
さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮している。	20	25	18	0	0	0	2	2		子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫されている。	4	1	1	0	0	0	0	
身近なものに直接触れて、驚いたり不思議に思うなど、感動する経験が広がるように配慮している。	20	28	15	1	0	0	2	1		好きな遊びが継続して取り組める場（コーナー）が用意されている。	3	3	0	0	0	0	0	
子どもが自由に歌ったり、踊ったり、イメージしたものにふりまわったりできるよう探助している。	29	28	5	2	0	0	3	0	14	子どもの活動がよち豊かになるように、活動の展開に応じて柔軟に環境を構成している。	3	2	0	0	0	0	0	1
子どもがさまざまな音楽に触れ、興味や関心に感じて自分で音をつくりだしたり、楽器を楽しむことができるよう配慮している。	15	21	18	7	1	1	4	0		大型遊具などを使って屋内でも十分に身体を動かしたり友達と一緒に遊んだりする場がある。	5	0	1	0	0	0	0	0
子どもが自分で考えたり、イメージしたりしたものを思い思いに作って楽しめるよう配慮している。	25	20	12	4	3	0	3	0		子どもが自由に遊べる時間が確保されている。	5	1	0	0	0	0	0	0
子どもの表現したものを保育に生かしたり、生活に取り入れたり、大切に扱うようにしている。	24	26	11	1	1	0	4	0		子どもの主体性を尊重し、生活に変化と潤いを与えようとするように配慮している。	4	2	0	0	0	0	0	0
子どものイメージを動きや言葉などで表現したり、演じたりすることを楽しむことができるよう配慮している。	17	30	12	4	0	0	4	0		身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている。	3	3	0	0	0	0	0	0
絵本の読みかきや紙芝居などを積極的に取り入れ、想像力や言葉に対する感覚を育てるようしている。	29	26	7	1	0	0	4	0		子どもが身近な動植物等に関心をもち、接する機会をつくっている。	2	2	2	0	0	0	0	0
表現しようとする気持ちを大切に、特定の技能の習得に偏らないように配慮している。	19	22	21	1	0	0	3	1	15	子どもが身近な動植物などとの様々な関わりを通して、生命を尊重する心を持って育っている。	2	2	2	0	0	0	0	0
子ども一人一人への理解を深め、受容しようとする。	30	31	5	0	0	0	1	0		身近な生活や友達との遊びの中で、数量や文字、図形などに関心を持つよう工夫している。	2	4	0	0	0	0	0	0
子どもに分かりやすい温かな言葉づかいで、おだやかに話すようにしている。	20	32	14	1	0	0	0	0		季節感のある素材や自然現象を保育に活用している。	3	2	1	0	0	0	0	0
「早くしなさい」とせかす言葉や「ダメ」「いけません」など制止する言葉を不必要に用いないようにしている。	14	32	21	0	0	0	0	0		季節や時期ごとの行事を保育に取り入れている。	4	2	0	0	0	0	0	0

16	ウ	子どもの要望や質問に対して、できるだけその場で対応するようにしている。	16	31	20	0	0	0	0	0	0	0	力	散歩や行事などで、地域の人たちや施設等に触れる機会をつくらせている。	3	3	0	0	0	0	0
	エ	「できない」「やめて」などと言ってくる子どもに対して、その都度気持ちをあげ止めて対応している。	19	34	12	1	0	0	1	0	0	1	ア	さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	2	3	0	0	0	0	0
	オ	自分を言葉で表現できなかつたり、「いや」などと駄々をこねたりする子どもの気持ちをくみとらうとしている。	15	41	11	0	0	0	0	0	0	0	イ	身近なものに直接触れて、驚いたり不思議に思うなど感動する経験が広がるように配慮している。	2	4	0	0	0	0	0
	力	泣いたり不安になつたりしている子どもに対して、放っておいたり、叱つたりするのはなく、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりするようにしている。	26	33	8	0	0	0	0	0	0	0	ウ	子どもが自由になりきれ、踊つたり、イメージしたものになりきれ、触つたり、イメージしたものを感じられるように配慮している。	2	4	0	0	0	0	0
		遊びや生活を通して、子ども相互の関係が育つよう配慮している。	22	35	9	0	0	0	0	1	0	1	エ	子どもがさまざまな音楽に触れ、興味や関心に感じて自分で音を作り出したり楽器を楽しめるよう配慮している。	1	4	1	0	0	0	0
	ア	子ども同士が互いのよさを認め、よりよい関係を作れるよう配慮している。	19	38	10	0	0	0	0	0	0	0	イ	子どもが自分で考えたたり、イメージしたり作ったりして楽しめるよう配慮している。	3	3	0	0	0	0	0
	イ	子どもが他の子どもの気持ちを気づき、時には自分の要求を抑えるような援助を行なっている。	18	35	12	2	0	0	0	0	0	0	ウ	子どもの表現したものが保育に生かされたり、生活に取り入れられたり、大切に扱われている。	3	3	0	0	0	0	0
	ウ	子ども同士の主張がぶつかりあう場面では、危険のないように注意しながら、子ども同士で解決するよう援助している。	16	0	17	0	1	0	3	0	0	0	エ	子どもがイメージを動きや言葉などで表現したり、演じたりすることを楽しめるよう配慮している。	2	4	0	0	0	0	0
17	エ	順番を守るなど、さまじりの大切さに気づき、守ろうとするよう援助している。	20	32	13	1	0	0	1	0	0	0	イ	絵本の読みかせや紙芝居などを積極的に取り入れ、想像力や言葉に対する感覚を育てている。	4	1	1	0	0	0	0
	オ	仲間や集団での協同遊びをとおして、自信を持って自分の役割を果たせるように配慮している。	18	20	20	2	1	0	6	0	0	0	ウ	子どもの表現しようとする気持ちを大切に扱い、特定の技能の習得に偏らないよう配慮している。	2	4	0	0	0	0	0
	力	当活動など園での生活に積極的に関わる体験ができるように配慮している。	19	26	12	1	1	0	8	0	0	0	エ	子ども一人一人への理解を深め、受容しようとして努力している。	3	3	0	0	0	0	0
	キ	異年齢の子ども同士が互いに触れ合い、関心を持つよう援助している。	27	14	19	5	0	0	1	1	0	1	ア	子どもに分かりやすい温かな言葉づかいで、おだやかに話している。	2	4	0	0	0	0	0
	ク	行事の実施にあたっては、年齢や発達、保育時間の違いなどに留意し、子ども相互の関係が育つようになっている。	18	20	19	4	1	0	5	0	0	0	イ	「早くしなさい」とせかす言葉や「ダメ」「いけません」など制止する言葉を必要に用いないようにしている。	2	4	0	0	0	0	0
		一人一人の子どもたちの生活状況や発達状況についての記録をとっている。	27	21	8	2	1	0	8	0	0	0	ウ	子どもの要望や質問に対して、「待ってて」「あとで」などと言わずに、なるべくその場で対応している。	2	4	0	0	0	0	0
18		子ども理解のために、記録をもとに関係する職員間で話し合い、指導計画の作成に生かしている。	19	25	11	4	1	0	7	0	0	0	エ	「できない」「やめて」などと言ってくる子どもに対して、その都度気持ちをあげ止めて対応している。	2	4	0	0	0	0	0
19		一人一人の子どもたちの記録に基づいて、適切な関わりを検討する会議に積極的に参加している。	18	24	10	6	1	0	8	0	0	0	オ	自分を言葉で表現できなかつたり、「いや」などと駄々をこねたりする子どもの気持ちをくみとらうとしている。	2	4	0	0	0	0	0

21	子どもの個人記録などは、個人情報保護法や守秘義務に基づいて管理している。	32	22	5	1	0	0	7	0
	乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	20	14	5	1	0	0	21	6
	授乳は、子どもが欲しがる時に、抱いて目をあわせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている。	20	7	1	0	0	0	33	6
	離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている。	17	8	2	0	0	0	34	6
	おむつ交換時は、やさしく声をかけたり、スキンシップをとりながら行っている。	22	15	3	0	0	0	20	7
	一人一人の生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように、静かな空間を確保している。	21	12	4	2	1	0	20	7
	子どもの発達段階に即した玩具や遊具などを用意している。	16	17	7	0	0	0	20	7
22	外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。	29	8	2	0	0	0	21	7
	喃語には、ゆったりとやさしく応えていく。	23	15	5	0	0	0	17	7
	顔を見合ってあやしたり、乳児とのやり取りや触れ合い遊びを行っている。	25	15	3	0	0	0	17	7
	だて抱き、腹這いなど、子どもの姿勢を変えていく。	18	12	3	0	0	0	26	8
	SIDS（乳幼児突然死候群）に関する必要な知識を理解している。*2	11	13	12	2	2	0	20	8
	寝返りのできない乳児を寝かせる場合には仰向けに寝かせている。	18	9	0	0	0	0	32	8
	子どもとの継続的な関わりが保てるよう配慮している。	18	16	3	0	0	0	22	8
	障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。*1	6	17	11	5	5	0	22	6
	一人一人の障害児の特性に配慮した計画を立てている。	3	14	11	5	5	0	26	7
	障害児について保育者間で定期的に話し合い、積極的に関わっている。	11	13	10	1	1	0	24	5
	障害児に関する情報を保護者に伝え、連携を図っている。	4	17	13	1	1	0	25	5
23	障害のない子どもとの障害児への関わりに対して配慮している。	8	17	13	1	1	0	21	6

	泣いたり不安になったりしている子どもにも対して、放っておいたり、叱ったりするのはなく、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしている。	2	4	0	0	0	0	0	0
	遊びや生活を通して、子ども相互の関係が育つよう配慮している。	2	4	0	0	0	0	0	0
	子ども同士が互いの良さを認め、よりよい関係を築けるよう配慮している。	3	3	0	0	0	0	0	0
	子どもが他の子どもの気持ちに気づき、時には自分の要求を抑えるような援助や指導を行っている。	2	2	2	0	0	0	0	0
	子ども同士の主張がぶつかりあうような場合には、危険のないように注意しながら、子ども同士で解決するように援助している。	4	1	1	0	0	0	0	0
	順番を守るなど、きまりの大切さに気づき、守ろうとするように援助している。	2	2	1	0	0	0	0	1
	仲間や集団での協同遊びをとおして、自信を持って自分の役割を果たせるように配慮している。	2	2	1	0	0	0	0	1
	当番活動*1など園での生活に積極的に関わる体験ができるように配慮している。	2	2	1	0	0	0	0	1
	異年齢の子どもが互いに触れ合い、関心をもつようになっている。	2	3	1	0	0	0	0	0
	行事の実施にあたっては、年齢や発達、保育時間の違い等に留意し、子ども相互の関係が育つようになっている。	2	3	0	0	0	0	0	1
	一人一人の子どもの生活状況や発達状況について記録をとっている。	3	3	0	0	0	0	0	0
	子どもの理解のために記録を基に関係する職員間で話し合い、次の指導計画の作成に活かしている。	2	3	1	0	0	0	0	0
	一人一人の子どもの記録に基づいて、適切な関わりを検討する会議など適切な関わりを検討する機会が定期的または必要に応じて設けられている。	2	2	1	1	0	0	0	0
	乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	2	4	0	0	0	0	0	0
	授乳は、子どもが欲しがる時に、抱いて目をあわせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている。	3	2	0	0	0	0	1	0
	離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行うおむつ交換時は、やさしく声をかけたり、スキンシップをとりながら行っている。	3	1	0	0	0	0	2	0
	一人一人の生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように、静かな空間が確保され、乳児の発達段階に即した玩具や遊具などが用意されている。	3	2	1	0	0	0	0	0
		4	2	0	0	0	0	0	0

	5	11	11	2	0	1	30	6
才	就学に関して、保護者・小学校・教育委員会等との連携を積極的に図っている。	8	9	15	7	2	1	19
力	障害児保育に関する研修を受け、保育に生かしている。	6	10	16	3	1	1	23
キ	医療機関や専門機関と連携し、必要に応じて助言を受けている。	18	19	14	3	0	0	9
	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。*2	22	14	15	4	1	0	10
ア	家庭的な雰囲気となるよう配慮している	23	17	15	1	1	0	10
イ	畳やじゅうたん、ソファなど寝転んだり、くつろいだりできる環境、個人個人で遊ぶことができる遊具などを用意している。	21	21	15	0	1	0	9
ウ	一人一人の子どもの要求に添って、抱いたり、声をかけるなど、ゆったりと接している。	26	14	12	4	1	0	9
エ	異年齢の子ども同士で遊べるように配慮している。	18	23	14	2	1	0	9
オ	子どもの状況について、職員間の連携を密に行っている。	17	18	21	1	1	0	9
カ	保護者との連携を密にして、子どもの生活リズムに配慮している。	30	21	8	0	0	0	7
	入園時や年度当初には、保護者との連携の大切さに配慮して取り組んでいる。	19	23	15	3	1	0	6
	子どもの発達や育児などについて保護者との共通理解を得るため、一人一人の保護者と情報交換を積極的に行っている。	19	25	14	2	1	0	6
ア	登降園時など保護者と日常的に情報交換を行っている。	23	20	8	3	1	0	12
イ	連絡帳などを利用して保護者との情報交換を積極的に行っている。	21	25	12	0	0	0	9
ウ	懇話会などで保護者に対して、園での状況を話し合うなど保護者の理解が得られるようになっている。	27	23	7	0	0	0	10
エ	個人面談など、保護者と個別に話し合い、理解を深めるようにしている。	18	24	16	2	0	0	7
	保護者の就労状況などに配慮して、行事や保育参加などを工夫して行っている。*1	23	30	9	0	0	0	5
	子どもの様子や保護者からの要求、対応などについて、職員間で共通理解を図るよう努めている。	16	21	25	2	0	0	3
	日々の子どもたちの状況に気を配り、虐待の早期発見に努めている。*2	16	19	21	2	0	1	7
	虐待が疑われる子どもについて、得られた情報をすみややかに施設長に報告するための体制を確立している。*2							

	5	1	0	0	0	0	0	0
カ	外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。	3	3	0	0	0	0	0
キ	喃語には、ゆったりとやさしく応えている。	3	3	0	0	0	0	0
ク	顔を見合ってあやしんだり、乳児とのやり取りや触れ合い遊びを行っている。	2	3	0	0	0	0	1
ケ	だて抱き、腹這いなど、子どもの姿勢を変えている。	3	3	0	0	0	0	0
コ	全職員にSIDS(乳幼児突然死症候群)に関する必要知識が周知されている。	4	0	0	0	0	0	2
サ	寝返りのできない乳児を寝かせる場合には仰向けに寝かせている。	3	2	1	0	0	0	0
シ	特定の保育者との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	1	2	1	0	0	0	2
	障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	1	1	2	0	0	0	2
ア	一人一人の障害児の特性に配慮した計画を立てている。	0	3	1	0	0	0	2
イ	障害児について保育者間で定期的に話し合い、積極的に関わっている。	0	3	1	0	0	0	2
ウ	障害児に関する情報を保護者に伝え、連携を図っている。	0	4	0	0	0	0	2
エ	障害のない子どもとの障害児への関わりに対して配慮している。	1	3	0	0	0	0	2
オ	就学に関して、保護者・小学校・教育委員会等との連携を積極的に図っている。	2	2	0	0	0	0	2
カ	障害児保育に関する研修を受け、保育に生かしている。	2	2	0	0	0	0	2
キ	医療機関や専門機関と連携し、必要に応じて助言を受けている。	2	3	0	0	0	0	1
	長時間*1にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	2	3	1	0	0	0	0
ア	家庭的な雰囲気を感じられる。	2	4	0	0	0	0	0
イ	畳やじゅうたん、ソファなど寝転んだり、くつろいだりできる環境、個人個人で遊ぶことができる遊具などがある。	2	4	0	0	0	0	0
ウ	一人一人の子どもの要求に添って、抱いたり、声をかけるなど、ゆったりと接している。	2	4	0	0	0	0	0
エ	異年齢の子ども同士で遊べるように配慮されている。	2	4	0	0	0	0	0

31	虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う際の体制を理解している。*2	13	17	18	6	1	1	8	3
32	育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。*1	13	10	5	0	0	0	38	1
	一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。*1	12	4	1	0	0	0	47	3
	ア 一人一人の子どもの日々の状態を把握している。	10	13	8	0	0	0	26	10
33	イ 一時保育の子どもと通常保育の子どもとの交流に配慮している。	12	5	1	0	0	0	40	9
	ウ 保護者とのコミュニケーションを十分にとっている。	10	11	9	0	0	0	28	9
	エ 保護者からの相談には必要に応じて行っている。	13	12	7	0	0	0	26	9
34	民生・児童委員や自治会等の地域団体との連携の重要性を理解している。	7	12	25	12	2	1	7	1
35	地域の協力や理解を得て行事などを実施する重要性を理解している。	14	22	21	3	0	0	7	0
36	園としての役割を果たすために必要な地域関係機関などの情報を収集し、それを共有している。	9	9	25	11	2	2	9	1
37	子どもの健康状況について、医療機関等と相談や連携ができる体制になっていることを理解している。	15	18	22	5	0	0	7	0
38	育児相談などに際して、児童相談所などの専門機関に相談や連携ができる体制になっていることを理解している。	10	11	31	5	0	0	7	2
39	小学校との間で、小学生と園児とが行事などで交流する機会や職員間の話し合い、研修などの機会に積極的に参加している。	9	11	16	9	3	3	18	0
40	中高生などの保育体験を受け入れるにあたり、受け入れの意義や方針を理解し、積極的に協力している。	21	19	17	3	0	0	7	0
41	実習生を受け入れるにあたっては、受け入れの意義や方針を理解し、積極的に協力している。	20	25	15	0	0	0	7	0
42	ボランティアを受け入れるにあたっては、受け入れの意義や方針を理解し、積極的に協力している。	19	21	17	2	0	0	8	0
43	園の理念や基本方針を理解している。	28	20	16	1	1	1	1	0
44	保育の内容について、定期的に自己評価し改善に努めている。	17	20	20	4	1	1	4	0

オ	子どもの状況について、職員間の引継ぎを適切に行っている。	2	3	1	0	0	0	0	0
カ	保護者との連携を密にして、子どもの生活リズムに配慮している。	2	3	1	0	0	0	0	0
キ	献立表にその日の夕食や軽食の内容が明記されている。	0	1	1	0	0	1	3	0
ク	長時間保育を受ける子どもにも夕食や軽食が提供されている。	1	0	0	0	0	1	4	0
	子どもの発達や育児などについて保護者との共通理解を得るため、一人一人の保護者と情報交換する機会や体制が整っている。	2	3	1	0	0	0	0	0
ア	登降園時など保護者と日常的に情報交換を行っている。	3	3	0	0	0	0	0	0
イ	連絡帳などを利用して、保護者との情報交換を行っている。	3	1	2	0	0	0	0	0
ウ	懇談会など保護者が集まって保育者と話し合う場を設けている。	3	3	0	0	0	0	0	0
エ	個人面談など、保護者と個別に話し合う機会を設けている。	3	3	0	0	0	0	0	0
25	保護者の就労状況などに配慮して、行事や保育参加などの機会を設けている。	3	3	0	0	0	0	0	0
26	子どもの様子や保護者からの要求、対応などについて、職員間で共通理解を図る体制がある。	2	2	2	0	0	0	0	0
27	入園にあたり、保護者等にわかりやすく説明している。	2	3	1	0	0	0	0	0
28	虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに施設長まで届く体制になっている。	1	5	0	0	0	0	0	0
29	虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	2	4	0	0	0	0	0	0
30	育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	2	2	1	1	0	0	0	0
	ア 保育等について、専門的な講習会や研修会、地域住民の生活に役立つ講演会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている	1	3	1	0	0	0	0	0
	イ 電話やファックスなどによる子育て相談を行っている。	1	1	2	1	0	0	1	0
31	子育て情報を地域に提供している	0	3	1	1	1	0	0	0

45	園としての自己評価・自己点検に積極的に参加している。	16	18	20	5	0	0	8	0
	情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	15	24	20	1	0	0	7	0
46	ア 園だより、クラスだより等を工夫して作成している。	25	18	12	1	0	0	11	0
	イ 園の掲示などによる保護者への情報提供について、わかりやすく伝える工夫をしている。	19	24	13	2	0	0	9	0
47	保育課程（教育課程・保育計画）の作成にあたっては、積極的に関わっている。	16	21	15	2	2	2	9	2
48	園の内外の研修に積極的に参加している	16	22	18	4	0	0	7	0
49	研修結果をまとめ、分かりやすく報告している。	5	22	20	5	4	4	9	0
50	研修の結果を保育に生かしている。	12	28	18	1	0	0	8	0
51	園としてのテーマや課題などを決め、継続的に研究に取り組んでいる。	12	10	18	10	3	3	11	2
52	利用者のプライバシー保護に関する規程などが整備されていることを理解している。	22	25	14	2	0	0	3	1
	子どもの人権に十分配慮するとともに、互いの違いを認め、尊重する心を育てよう配慮している。	23	27	14	1	0	0	1	1
	ア 子どもが、自分の意見を言うことができるよう配慮している。	29	27	10	0	0	0	1	0
	イ 子どもが、他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮している。	25	29	12	0	0	0	1	0
53	ウ 一人一人の子どもの生活習慣や文化、考え方などの違いを知り、それを尊重する心を育てよう努めている。	22	27	17	0	0	0	1	0
	工 子どもの人権や文化の違い、互いに尊重する心について、保護者にも理解してもらおうような取り組みを行っている。	11	22	19	4	3	3	7	1
	オ 子どもの権利擁護に関する研修等に積極的に参加している。	3	11	13	15	6	6	11	3
	性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けけないよう配慮している。	22	25	17	2	0	0	1	0
	ア 子どもの遊び方や態度について、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮している。	23	27	16	0	0	0	1	0
54	イ 子どもの服装や持ち物などについて、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮している。	22	28	16	0	0	0	1	0

	工 来園による子育て相談を行っている	1	3	1	1	0	0	0	0
	オ 地域の子育て家庭の親子が定期的に集まる機会を設けている	3	1	2	0	0	0	0	0
	カ 地域の子育て家庭の親子と園に通っている親子が交流する機会を設けている。	2	0	1	1	1	0	0	0
	キ 地域の母子保健活動と連携した取り組みを行っている。	0	2	2	1	1	0	0	0
	一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	0	1	1	1	0	0	3	0
	ア 一時保育のための保育室などの確保に配慮している。	0	1	0	2	0	1	2	2
	イ 一時保育のための担当者が決められている。	0	1	0	0	1	1	1	2
32	ウ 一人一人の子どもの日々の状態を把握している。	0	1	1	0	0	0	1	2
	エ 一時保育の子どもと通常保育の子どもとの交流に配慮している。	0	1	0	0	0	1	2	2
	オ 保護者とのコミュニケーションを十分にとっている。	0	2	1	0	0	0	1	2
	カ 保護者からの相談には必要に応じて行っている。	0	2	1	0	0	0	1	2
33	民生・児童委員や自治会等の地域団体と連携した取り組みを行っている。	1	3	2	0	0	0	0	0
34	近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼するなどの配慮をしている。	2	3	1	0	0	0	0	0
35	園としての役割を果たすために必要な地域の関係機関などの情報を収集し、それを職員が共有している。	1	2	2	1	0	0	0	0
36	子どもの健康状況について、医療機関等と相談や連携ができる体制になっている。	2	4	0	0	0	0	0	0
37	育児相談などに際して、児童相談所などの専門機関に相談や連携ができる体制になっている。	0	5	1	0	0	0	0	0
38	小学校との間で、小学生と園児とが行事等で交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの連携の機会がある。	1	5	0	0	0	0	0	0
39	中高生などの保育体験を受け入れるにあたり、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。	3	3	0	0	0	0	0	0
40	実習生を受け入れるにあたっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、実習担当者も決められている。	2	4	0	0	0	0	0	0

ウ	育児、家事、介護などについて、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮している。	23	23	18	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	41	ボランテニアを受け入れるにあたっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。	1	5	0	0	0	0	0	0	0		
	職業について、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮している。	26	23	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	42	園の理念が明文化されている。	4	2	0	0	0	0	0	0	0		
	食中毒の発生時に対処できるマニュアルがあり、さら にその対応方法について理解している。*1	7	21	17	11	3	1	7	0	0	0	0	0	0	43	園の理念や基本方針が職員に周知されている。	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	
	事故防止のためのチェックリストなどがあり、事故防 止に向けた具体的な取り組みを行っている。*1	10	15	19	13	2	1	7	0	0	0	0	0	0	44	園の理念や基本方針が利用者等に周知されてい る。	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	事故や災害に適切に対応できるマニュアルを理解し 解決し適切に対応できるよう努めている。	13	17	23	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0	45	園長自らの役割と責任を職員に対して明らかに し、理解されるように取り組んでいる。	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
55	不審者の侵入に対処できるマニュアルを理解し 適切に対処できるよう努めている。*1	11	17	20	9	3	0	7	0	0	0	0	0	46	保育の内容について、一人一人の職員の自己評価 を基に、定期的に自己評価を行っている。	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
56	保護者からの苦情や意見に対して、迅速に対応 している。	25	20	16	0	0	0	5	1	0	0	0	0	47	保育の質の向上や改善のための園としての取り組 みを、職員参加により行っている。	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
57														48	子どもや保護者に関する記録の管理体制が確立し ている。	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
58															情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や 配慮を行っている。	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
59															園により、クラスだより等を工夫して作成 し、配布している。	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
															園の掲示等による保護者への情報提供につい て、わかりやすく伝える工夫が見られる。	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
															パンフレットや要覧等を園児の保護者以外に も配布している。	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
															園外向けの掲示板やポスター等で、園の様子 や行事などについて、地域の人に見てもらえ るようにしている。	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
															ホームページや情報誌など誰もが容易に入手 できる形態の広報媒体がある。	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
															園の運営状況等についての情報を求めに應じ て公開できるようにしている。	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
															保育課程（教育課程・保育計画）が、保育の基本 方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向 等を考慮して作成されている。	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
															保育課程（教育課程・保育計画）が、保育所保育指針お よび幼稚園教育要領に基づいて編成されている。	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
															保育課程（教育課程・保育計画）は保育所・幼稚園 の連携のもとで作成されている。	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
															認定子ども園など幼保合同・一体保育施設としての職員 の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
															幼保の職員が合同で研修をする機会が十分にあ る。	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
															職員一人一人に対して組織としての適切な教育・ 研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取 組みが行われている。	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	

56	定期的に一人一人の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	1	1	3	1	0	0	0	0
57	園としてのテーマや課題を決め、継続的に研究に取り組んでいる。	3	3	0	0	0	0	0	0
58	子どもや保護者などのプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	1	1	3	1	0	0	0	0
59	子どもの人権に十分配慮するとともに、互いの違いを認め、尊重する心を育てよう配慮している。	2	4	0	0	0	0	0	0
	子どもが、自分の意見を保育者などの大人にはっきり言うことができるよう配慮している	2	4	0	0	0	0	0	0
	子どもが、他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮している。	2	4	0	0	0	0	0	0
	一人一人の子どもの生活習慣や文化、考え方やなどの違いを知り、それを尊重する心を育てよう努めている。	2	4	0	0	0	0	0	0
	子どもの人権や文化の違い、互いに尊重する心について、保護者にも理解してもらいような取り組みを行っている。	2	3	1	0	0	0	0	0
子どもの権利擁護に関する研修等に職員が参加している。	1	2	2	0	0	0	0	0	0
60	性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	2	3	1	0	0	0	0	0
	子どもの遊び方や態度について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	2	4	0	0	0	0	0	0
	子どもの服装や持ち物について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	2	4	0	0	0	0	0	0
	育児、家事、介護などについて、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	2	3	1	0	0	0	0	0
	職業について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	2	3	1	0	0	0	0	0
61	調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	2	3	1	0	0	0	0	0
62	食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている。	4	2	0	0	0	0	0	0
63	事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている。	3	3	0	0	0	0	0	0
64	事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	2	4	0	0	0	0	0	0
65	不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	1	4	1	0	0	0	0	0
66	保護者の意向を把握するための取り組みを行っている。	0	4	2	0	0	0	0	0
67	苦情解決の体制が整備されている。	0	5	1	0	0	0	0	0
68	保護者からの意見等に対して迅速に対応している。	3	2	1	0	0	0	0	0

資料 6

保育の質の向上にむけて

自己評価 <保育者編>

<この評価の目的>

この評価は保育者が自らの保育を振り返り、保育の実態を把握し、さらに質の高い保育を目指し具体的な課題を明確にすることを目的に行うものです。

1回のみでの評価ではなく、1年間で基本的に3期に分けて評価する形式になっています。改善に向けての取り組みやその成果を確認し、継続的・循環的な質を高めるプロセスを重視したものです。

<本冊子の構成>

本冊子は以下の評価項目により構成されています。

評価項目	全体構成	(保育者)	59項目
------	------	-------	------

I. 子どもの発達援助	24項目
I-1 子どもの保育環境と生活	9項目 (34細目)
I-1 (1) 室内・戸外の環境	2項目 (16細目)
I-1 (2) 生活－食事	2項目 (11細目)
I-1 (3) 生活－排泄・着脱・休息	1項目 (7細目)
I-1 (4) 生活－健康管理	4項目
I-2 保育のプロセスと保育者の役割	15項目 (60細目)
I-2 (1) 保育の計画	3項目
I-2 (2) 環境構成と子どもの活動	3項目 (21細目)
I-2 (3) 保育者の援助	2項目 (14細目)
I-2 (4) 記録・評価	4項目
I-2 (5) 乳児保育	1項目 (12細目)
I-2 (6) 障害児保育・長時間保育	2項目 (13細目)
II. 子育て支援	18項目 (8細目)
II-1 保護者のニーズに応ずる支援(在園児)	7項目 (4細目)
II-2 地域の子育て支援	2項目 (4細目)
II-3 地域や関係機関との連携	9項目
III. 運営管理	17項目 (11細目)
III-1 組織のあり方(運営管理)	5項目 (2細目)
III-2 研修・研究	4項目
III-3 人権	3項目 (9細目)
III-4 安全・事故防止	4項目
III-5 保護者への対応	1項目

<自己評価をするにあたって>

①評価の手順

本評価は1～6までの六段階で行います。自分にあてはまると思われる番号に○をつけてください。

各段階は以下のような意味を表しています。

<本評価における6段階の意味>

- 1 現在、全く取り組んでいないもしくは全く意識していない状況を示しています。
- 2 まだ十分ではないが、意識して取り組んでいるあるいは取り組みはじめた状況を示しています。
- 3 努力して取り組み、具体的な課題や成果が見えはじめた状況を示しています。
- 4 かなり努力して取り組み、子どもの姿などを通して常に課題や成果を認識している状況を示しています。
- 5 同僚との話し合いや見直しなどにより常に課題を明確に把握して、自信を持って取り組んでいると言える状況を示しています。
- 6 完璧に行っており、全く問題はない状況を示しています。

保育内容等については、各項目に細目が設定されています。最初に細目ア～についてチェックし、それらを総合的に判断して6段階で評価項目の判断を行ってください。

全てチェックし終わったら、各項目の○を線で結んでみてください。

②自由記述について

評価の領域ごとに、自由記述欄を設けています。評価項目では評価しきれない内容（特記すべき事項や独自性、次の評価に向けて課題としたい点など）については、ここに記入をしてください。

③3期に分けての評価

冒頭に述べたように、本評価は1年間を3期に分けて継続的に行うことが基本ですが、状況に応じて2期で行うなど柔軟に活用してください。

評価用紙は3期とも共通のものを利用し、各期の別が分かりやすいように下記のような色分けをして行います。

1期—黒

2期—青

3期—赤

④記入上の注意

基本的には、本評価の対象は直接担当しているクラスの子どもだけでなく、園全体の子どもです。ただし、項目によっては、自分が全く関わる機会のない内容が含まれている場合があります。そうした可能性のある項目は緑で示しています。

該当しない場合には評価せず、二重線などで表記してください。

また、一部の項目には語句の意味などについて説明を加えてあります。参照してください。

I. 子どもの発達援助							
1 子どもの保育環境と生活							
1) 室内・戸外の環境							
1	子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	1	2	3	4	5	6
	ア 子どもが心地よく過ごすことができるように採光に配慮している。	1	2	3	4	5	6
	イ 通風、換気に配慮している。	1	2	3	4	5	6
	ウ 各部屋に湿温計などがあり、温度・湿度に配慮している。	1	2	3	4	5	6
	エ 設備の管理や清掃を十分に行い、屋内・外とも清潔に保っている。	1	2	3	4	5	6
	オ 手洗い場、トイレは、子どもが利用しやすいように工夫し、安全に配慮している。	1	2	3	4	5	6
	カ 屋外の砂場や遊具・玩具などの衛生面に配慮している。	1	2	3	4	5	6
	キ 子どもの安全確保のために施設整備・遊具を定期的に点検している。	1	2	3	4	5	6
	ク 寝具の消毒や乾燥を定期的に行っている。	1	2	3	4	5	6
2	生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	1	2	3	4	5	6
	ア 子どもが不安になった時などにいつでも応じられるようにしている。	1	2	3	4	5	6
	イ 明るく落ち着いていて生活しやすい保育室となるよう配慮している。	1	2	3	4	5	6
	ウ 音楽や保育者の声が不必要に大きくなるよう配慮している。	1	2	3	4	5	6
	エ 自然物を取り入れるなど、季節にあわせた保育環境を工夫している。	1	2	3	4	5	6
	オ 庭など屋外での活動の場を確保している。	1	2	3	4	5	6
	カ 一人一人の子どもの気持ちに応じてくつろいで落ち着ける場所を用意している。	1	2	3	4	5	6
	キ 登降園時間の違いなど、個々の生活背景に十分配慮している。	1	2	3	4	5	6
ク 休息したい（眠くなったとき）時に安心して休息する（眠る）ことができる場所を確保している。	1	2	3	4	5	6	

1) 「室内・戸外の環境」の項目について、特記すべき内容があればご記入ください。

2) 生活一食事							
3	食事を楽しむための工夫をしている。	1	2	3	4	5	6
	ア 食事をする部屋としての雰囲気づくりに配慮している。	1	2	3	4	5	6
	イ 子どもが食べ物に関心を持つよう工夫している。	1	2	3	4	5	6
	ウ 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。	1	2	3	4	5	6
	エ 子どもの負担になるほどに、残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていない。	1	2	3	4	5	6
	オ 子どもが落ち着いて食事を楽しめるように保育者が工夫して援助している。	1	2	3	4	5	6
	カ 時には戸外で食べるなど、様々な食事のスタイルの工夫をしている。	1	2	3	4	5	6
	キ 子どもが育てた野菜などを料理して食べる機会を設けている。	1	2	3	4	5	6
	ク 子どもが食事の準備や後片づけなどに参加できるよう配慮している。	1	2	3	4	5	6
	ケ 食事内容が幼・保などで異なる場合に子どもへの対応に配慮している。	1	2	3	4	5	6
4	子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	1	2	3	4	5	6
	ア その日の喫食状況（哺乳も含む）を保護者に伝えている*1。	1	2	3	4	5	6
	イ 様々な機会に発育期にある子どもの食事の重要性を保護者に伝えている。	1	2	3	4	5	6

*1 3歳未満児については毎日、3歳以上児については必要に応じて、になります。

2) 「生活一食事」の項目について、特記すべき内容があればご記入ください。

3) 生活—排泄・着脱・休息								
5		基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	1	2	3	4	5	6
	ア	トイレに行くことをせかしたり、強制したりせずに、一人一人のリズムに合わせるようにしている。	1	2	3	4	5	6
	イ	おもらしをしたときに、その都度やさしく対応し、子どもの心を傷つけないよう配慮している。	1	2	3	4	5	6
	ウ	衣服の脱ぎ着に際して、せかしたり、着せてしまったりしないで、自分でやろうとする子どもの気持ちを大切にしている。	1	2	3	4	5	6
	エ	子どもが自分で着脱しやすいように、衣類の整理の仕方や着方の援助について工夫している。	1	2	3	4	5	6
	オ	休息時には、子守唄を歌ったり、背中を軽くたたくなど、安心して心地よい眠りにつけるように配慮している。	1	2	3	4	5	6
	カ	休息時間以外でも、一人一人の状況に応じて、眠らせたり、身体を休ませるようにしている。	1	2	3	4	5	6
	キ	休息時間に、眠くない子どもへの配慮をしている。	1	2	3	4	5	6

3) 「生活—排泄・着脱・休息」の項目について、特記すべき内容があればご記入ください。

4) 生活—健康管理								
6		登園時や保育中の子どもの健康管理は、職員間での共通理解に基づき、子ども一人一人の発育・発達状況、健康状態に応じて実施している。	1	2	3	4	5	6
7		健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	1	2	3	4	5	6
8		感染症に関して職員間*1で共通理解しており、発症時には保護者や子どもに適切な対応をしている。	1	2	3	4	5	6
9		アレルギー疾患をもつ子どもに対し、家庭や医師と連携をしながら、その子どもに適切な対応を行っている。	1	2	3	4	5	6

*1 職員間とは非常勤職員も含まれます。

4) 「生活—健康管理」の項目について、特記すべき内容があればご記入ください。

2. 保育のプロセスと保育者の役割

1) 保育の計画

10	保育課程（教育課程・保育計画）に基づいて指導計画を作成している。	1	2	3	4	5	6
11	一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	1	2	3	4	5	6
12	子どもの実態に即して指導計画の評価・見直しを定期的に行ない、その結果を次の指導計画に生かしている。	1	2	3	4	5	6

1) 「保育の計画」の項目について、特記すべき内容があればご記入ください。

2) 環境構成と子どもの活動								
13		子どもが自発的に活動できる環境を構成している。	1	2	3	4	5	6
	ア	子どもの発達段階に即した玩具や遊具などを用意している。	1	2	3	4	5	6
	イ	子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫している。	1	2	3	4	5	6
	ウ	好きな遊びが継続して取り組める場（コーナー）を用意している。	1	2	3	4	5	6
	エ	子どもの活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて柔軟に環境を再構成している。	1	2	3	4	5	6
	オ	大型遊具などを使って屋内でも十分に身体を動かしたり友達と一緒に遊んだりする場を用意している。	1	2	3	4	5	6
	カ	子どもが自由に遊べる時間を確保している。	1	2	3	4	5	6
	キ	子どもの主体性を尊重し、生活に変化と潤いを与えるような行事になるように配慮している。	1	2	3	4	5	6
14		身近な自然や社会とかかわれるような取り組みをしている。	1	2	3	4	5	6
	ア	子どもが身近な動植物等に関わりを持つ機会をつくっている。	1	2	3	4	5	6
	イ	子どもが身近な動植物等との関わりを通して生命を尊重する心を育てようとしている。	1	2	3	4	5	6
	ウ	身近な生活や友達との遊びの中で、数量や文字、図形などに関心を持つ工夫をしている。	1	2	3	4	5	6
	エ	季節感のある素材や自然事象を保育に活用している。	1	2	3	4	5	6
	オ	季節や時期ごとの行事を保育に取り入れている。	1	2	3	4	5	6
	カ	散歩や行事などで、地域の人たちや施設などに触れる機会をつくっている。	1	2	3	4	5	6
15		さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮している。	1	2	3	4	5	6
	ア	身近なものに直接触れて、驚いたり不思議に思うなど、感動する経験が広がるように配慮している。	1	2	3	4	5	6
	イ	子どもがイメージしたものを自由に歌ったり、踊ったりなどできるように配慮している。	1	2	3	4	5	6
	ウ	子どもがさまざまな音楽に触れ、興味や関心に応じて自分で音をつくりだしたり楽器を楽しむよう配慮している。	1	2	3	4	5	6
	エ	子どもが自分で考えたり、イメージしたりしたものを思い思いに作って楽しめるよう配慮している。	1	2	3	4	5	6
	オ	子どもの表現したものを保育に生かしたり、生活に取り入れたり、大切に扱うようにしている。	1	2	3	4	5	6
	カ	子どものイメージを動きや言葉などで表現したり、演じたりすることを楽しむことができるよう配慮している。	1	2	3	4	5	6
	キ	絵本の読みきかせや紙芝居などを積極的に取り入れて、想像力や言葉に対する感覚を育てるようにしている。	1	2	3	4	5	6
	ク	表現しようとする気持ちを大切に、特定の技能の習得に偏らないように配慮している。	1	2	3	4	5	6

2) 「環境構成と子どもの活動」の項目について、特記すべき内容があればご記入ください。

3) 保育者の援助							
16	子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	1	2	3	4	5	6
	ア 子どもに分かりやすい温かな言葉づかいで、おだやかに話すようにしている。	1	2	3	4	5	6
	イ 「早くしなさい」とせかす言葉や「ダメ」「いけません」など制止する言葉を不必要に用いないようにしている。	1	2	3	4	5	6
	ウ 子どもの要望や質問に対して、できるだけその場で対応するようにしている。	1	2	3	4	5	6
	エ 「できない」「やって」などと言ってくる子どもに対して、その都度気持ちを受け止めて対応している。	1	2	3	4	5	6
	オ 自分を言葉で表現できなかつたり、「いや」などと駄々をこねたりする子どもの気持ちをくみとろうとしている。	1	2	3	4	5	6
	カ 泣いたり不安になったりしている子どもに対して、放っておいたり、叱ったりするのではなく、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりするようにしている。	1	2	3	4	5	6
17	遊びや生活を通して、子ども相互の関係が育つよう配慮している*1。	1	2	3	4	5	6
	ア 子ども同士が互いのよさを認め、よりよい関係を作れるよう配慮している。	1	2	3	4	5	6
	イ 子どもが他の子どもの気持ちに気づき、時には自分の要求を抑えるような援助を行なっている。	1	2	3	4	5	6
	ウ 子ども同士の主張がぶつかりあう場面では、危険のないように注意しながら、子ども同士で解決するように援助している。	1	2	3	4	5	6
	エ 順番を守るなど、きまりの大切さに気づき、守ろうとするように援助している。	1	2	3	4	5	6
	オ 仲間や集団での協同遊びをとおして、自信を持って自分の役割を果たせるように配慮している。	1	2	3	4	5	6
	カ 当番活動*2など園での生活に積極的に関わる体験ができるように配慮している。	1	2	3	4	5	6
	キ 異年齢の子どもが互いに触れ合い、関心を持つように援助している。	1	2	3	4	5	6
	ク 行事の実施にあたっては、年齢や発達、保育時間の違いなどに留意し、子ども相互の関係が育つようにしている。	1	2	3	4	5	6

*1 担当している子ども以外に関わる場合についても含めて回答してください。

*2 低年齢の場合、保育者を手伝ったり、他の子どもが当番活動を行っている場面を見守るなども含まれます。

3) 「保育者の援助」の項目について、特記すべき内容があればご記入ください。